

令和8年度 水質分析研修 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、水質分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

(1) 期間

全体：令和8年11月20日（金）から令和8年12月11日（金）

オンライン開催日：令和8年11月20日（金）～令和8年12月4日（金）

会場に集合する期間：令和8年12月7日（月）～令和8年12月11日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 研修予定人員

各コース 15名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) 研修所ホームページへのアクセスが可能な者

※配信方法は環境調査研修所公式動画サイトから行う予定です。

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、添付様式による「被推薦者名簿」を令和8年9月30日(水)までに必着するよう環境調査研修所所長あて提出すること。送付は電子での提出を基本とする。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

また被推薦者については、別途、次のURL (<https://forms.cloud.microsoft/r/NfDpazdq9x>) の「実務経験調書」に、本人の記載により期限までに提出すること。

※なお、「被推薦者名簿」と「実務経験調書」の両方が期限までに提出されることをもって受付とします。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

往復に必要な旅費及び滞在費は所属長の負担とする。

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添2「日程表（令和8年度水質分析研修）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

(研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。)

(別紙) 研修実施方法

1. 受講生は、指定された動画を聴講しレポートを提出する（指定教材は、本文書の「動画教材一覧」に掲載）。レポートは研修所が指定する様式にて、令和8年12月4日（金）までに記載すること。
2. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。
実習内容をまとめた実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
3. 報告書に基づき、研修最終日に実施するゼミナールにおいて、受講生同士の意見交換や討議を行う。

※講義動画視聴は、環境調査研修所公式動画サイトにアクセスし視聴していただきます。

○ 水質分析研修 教科内容

教科内容	時間
基調講義(動画)	0.75
共通講義	1.0
講義動画聴講	4.0
実習講義	1.0
実習	24.5
ゼミナール	1.5
その他(開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等)	3.25
合計教科時間	36.0

○ 水質分析研修 実習内容

コース	実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
A	水質中の農薬 GC/MS対象水質基準 項目（シマジン・チ オベンカルブ）	前処理及び測定法 （固相抽出法およびガスクロ マトグラフ質量分析法）の習 得	1. 前処理法固相抽出法 2. クリーンアップ法 3. 測定法 ガスクロマトグラフ質量分析法（四重 極型） 4. 精度管理手法	15名
B	水質中の有機 フッ素化合物 PFOS、PFOA、 PFHxS	前処理及び測定法 （固相抽出法および液体クロ マトグラフ質量分析法の習得 ）	1. 前処理法 固相抽出法 2. 測定法 液体クロマトグラフ質量分析法（四 重極型） ^{注)} 3. 精度管理手法 注) 装置測定メソッドの作成は行いません	15名

C	水質中の金属類 カドミウム、鉛、亜鉛、ヒ素、セレン等	告示法およびJIS等に基づく 有害金属測定技法及び応用手 法の習得	1. 前処理法 試料分解法、固相抽出法 2. 測定法 I C P 質量分析法、水素化物発生原子 吸光法 3. 精度管理手法	15名
合 計				45名

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画を期間内に聴講してください。

コース	教材名	講師	時間
共通	「基調講義」環境省における水環境 課題への取組について	環境省水・大気環境局環境管理課	0.75
A	水質分析の前処理（固相抽出法）	ジーエルサイエンス株式会社 坂井拓斗	1.0
	質量分析の基礎	公立鳥取環境大学 山本敦史	1.5
	クロマトグラフィーの基礎（GC）	東京薬科大学 熊田英峰	1.0
	GC カラムの取扱いと選び方 GC カラムの種類と取扱い	Restek 株式会社	0.5
B	水質分析の前処理（固相抽出法）	ジーエルサイエンス株式会社 坂井拓斗	1.0
	LC-MS の実践	公立鳥取環境大学 山本敦史	1.5
	HPLC の基礎	シグマアルドリッチジャパン合同会社 佐々木 豊	0.5
	HPLC 分析の応用 ～トラブルシューティング	シグマアルドリッチジャパン合同会社 植田 泰輔	0.5
	LC-MS/MS 分析をおこなうための基礎 知識～水試料中の PFOS, PFOA 分析を 中心に～	環境省 環境調査研修所 木村 久美子	0.5
C	水質試料の前処理	麻布大学 伊藤彰英	1.5
	水質試料中の金属類の分析	パーキンエルマー合同会社 古川 真	1.5
	原子吸光法の基礎	株式会社島津製作所 川上正	1.0

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の開講式は9：00より行う予定です。8：45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15：45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、鉄道の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。